

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある数学科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

本単元では特に、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめたり、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深めたりすることで、論理的に考察し表現する力を養う。図形の性質や関係を論理的に考察し表現する上で重要なのは、数学的な推論の過程に着目し、既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てていくことである。つまり、既習とのつながりを強く認識し、視点や条件を変えることで発展的に考察したり統合的に捉えたりすることこそ、本教材のおもしろさであり、資質・能力の育成に係る重要な視点であると考えている。

(2) 指導の計画 (第3学年 5章「相似と比」)

時	学習内容	知	思	主
1~6	1節 相似な図形			
7	2節 三角形と比	○		
8	三角形と比の定理	○		
9	平行線と線分の比	○		
10	中点連結定理		○	
11【本時】	三角形の角の二等分線と比		○	○
12	平行線と図形の面積	○		
13	〇たしかめよう	◎	◎	
14~16	3節 相似な図形の面積と体積			
17~19	4節 相似な図形の利用			
20	◎章末問題	◎	◎	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

既習の図形の性質や関係を基に、表現を吟味したり、違いや共通点を見いだしたりして、仲間とともに考えを統合する姿、【つながる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 画面収録と録音によって、動画化された自分の考え(説明動画)
- ◆2) 共有された仲間の考え(説明動画)

個別最適な学び

一人一人が説明(見通し)動画を作成する。作成された動画を基に教師が実態をつかみ、指導・援助にあたる。

共有された仲間の動画を

もとに理解を深めたり、統合的に考えてポイントを見いだしたりする。協働的な学び

資質・能力

相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、新たな図形の性質を論理的に確かめること。

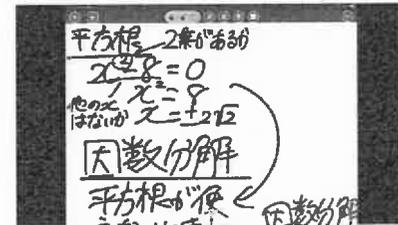
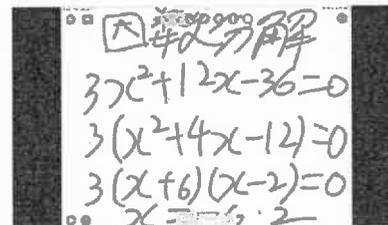
4 本時について

(1) 本時のねらい

三角形の角の二等分線と比の定理について、複数の証明の仕方を考えたり、共通点や違いに着目して比べたりする活動を通して、補助線によって相似な三角形を見いだすことが大切だと気づき、図形の性質を使って定理を証明することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
前時	1 課題をもつ ・二等辺三角形の頂角の二等分線は、底辺を二等分すると学習した。 一般の三角形では、底辺はどのような比に分けられるのだろうか。 <三角形の角の二等分線と比>定理 △ABCで、∠Aの二等分線と辺BCとの交点をDとすると、AB:AC=BD:CDである。 ・点Cを通りADと平行な直線と、BAを延長した直線との交点をEとして△BCEをつくり、二等辺三角形の性質と、三角形と比の定理によって証明できる。 ・別の補助線を使った方法でも証明してみよう。 【課題】 三角形の角の二等分線と比の定理を証明しよう。(A:複数の考えから、まとめる)	◆1) 画面収録と録音によって、動画化された自分の考え(説明動画) ・実践力養成コースでは、説明動画を作成するのを通して、根拠を明確にどのように証明したのか、また、他の補助線を使った図との証明の共通性と違いに着目させ、統合的に考えることができる生徒を目指す。
本時	2 家庭学習で自分の考えをもつ。④~⑥の図のうち1つを選択し、証明する。 ◆1) 画面収録と録音機能を用いて、定理の証明を説明する。 3 仲間の証明を視聴し、証明の正しさや疑問点を小集団で交流し、加筆修正する。 ◆2) 共有された仲間の動画から、『共通点』『違い』という視点で、本時のねらいに迫る。 ・④⑤は、補助線によってできる二等辺三角形の性質を使っている。その後、相似な三角形に注目して証明している。 ・⑥は、④⑤と似ているが、相似な三角形に注目してから、二等辺三角形の性質を使っている。 ・⑥は相似な三角形のみで証明している。どれも補助線によって相似な図形を見つければよさそうだ。 4 確かめ問題に取り組み。 5 発展的な練習問題に取り組み。 6 次時の課題をもつ <問題>△ABDと△DBCの面積の比をもとめよう。 ・平行線の間の距離は等しいので、ADとBCを底辺と見たとき、どちらも高さが等しい。だからADとBCの長さの比を求めればよい。平行線の性質に着目すればよさそう。 【課題】 平行線と線分の比に着目して、三角形の面積について調べよう。	◆2) 共有された仲間の説明動画 ・実践力養成コースでは、仲間が作成した動画を視聴し、『共通点』『違い』の観点で考察することで、本時のねらいに迫っていく。本時では、仲間の説明を見比べることで、補助線によって相似な図形に注目しているという共通点と、二等辺三角形の性質を使う有無や流れの違いに着目させていく。 【評価規準】(思考・判断・表現) 補助線によって現れる相似な三角形を示し、根拠となる性質を明確にして証明を書いている。 ◆1) 画面収録と録音によって、動画化



令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある数学科学習

1 単元について

(1) 教材の魅力

本単元では特に、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめたり、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深めたりすることで、論理的に考察し表現する力を養う。図形の性質や関係を論理的に考察し表現する上で重要なのは、数学的な推論の過程に着目し、既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てていくことである。つまり、既習とのつながりを強く認識し、観点や条件を変えることで発展的に考察したり統合的に捉えたりすることこそ、本教材のおもしろさであり、資質・能力の育成に係る重要な視点であると考えている。

(2) 指導の計画 (第3学年 5章「相似と比」)

時	学習内容	知	思	主
1~6	1節 相似な図形			
7	2節 三角形と比	○		
8	三角形と比の定理	○		
9	平行線と線分の比	○		
10	中点連結定理		○	
11(本時)	三角形の角の二等分線と比	○	○	○
12	平行線と図形の面積	○		
13	○たしかめよう	◎	◎	
14~16	3節 相似な図形の面積と体積			
17~19	4節 相似な図形の利用			
20	◎章末問題	◎	◎	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

既習の図形の性質や関係を根拠として、新たな図形の性質を数学的な推論によって論理的に示す姿。【高まる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 画面収録と録音によって、動画化された自分の考え(説明動画)
- ◆2) 共有された仲間の説明動画

個別最適な学び

一人一人が説明(見通し)動画を作成する。作成された動画を基に教師が実態をつかみ、指導・援助にあたる。

共有された仲間の動画を基に理解を深めたり、統合的に考えてポイントを見いだしたりする。協働的な学び

資質・能力

相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、新たな図形の性質を論理的に確かめること。

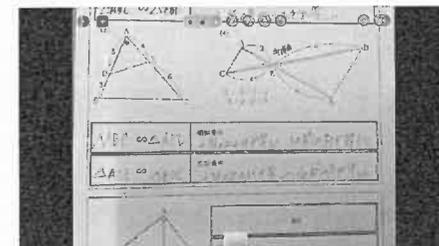
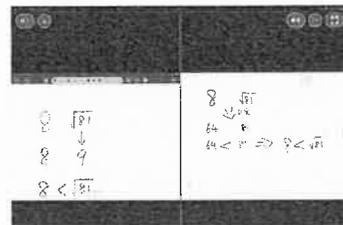
4 本時について

(1) 本時のねらい

三角形の角の二等分線と比の定理について、証明を記述し、全体のポイントをまとめる動画を作成したり、仲間が作成した動画を見比べたりする活動を通して、補助線によって相似な三角形を見いだすことが大切だと気づき、図形の性質を使って定理を証明することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	0 家庭学習を提出する。 1 課題をもつ。 ・二等辺三角形の頂角の二等分線は、底辺を二等分すると学習した。一般の三角形では、底辺はどのような比に分けられるのだろうか。 <三角形の角の二等分線と比>定理 $\triangle ABC$ で、 $\angle A$ の二等分線と辺 BC との交点を D とすると、 $AB : AC = BD : CD$ である。 ・ $\triangle ABC$ で、 $\angle A$ の二等分線と辺 BC との交点を D とし、定理が成り立つことを証明しよう。 【課題】 三角形の角の二等分線と比の定理を証明しよう。(B:ポイントを動画でまとめる)	◆1) 画面収録と録音機能によって、動画化された自分の考え(説明動画) ・証明の学習では、「仲間と見通しをもつ」→「各自で証明を記述する」→「証明全体を俯瞰してポイントをまとめる(動画)」の手順を大切にしている。特に、全体を見返して論理構成を確かめることは、考えを整理できるだけでなく、根拠として用いた性質への気づきにつながるものであると考えている。
考える	2 方法(ア)を全体で確認し、証明の手順を理解する。 ・点 C を通り AD と平行な直線と、 BA を延長した直線との交点を E とし $\triangle BCE$ を作り、二等辺三角形の性質と、三角形と比の定理によって結論を導いている。つまり、二等辺三角形を作り、三角形と比の定理を用いているのだな。 3 方法(イ)(ウ)のどちらかを小集団で1つ選び、タブレット端末上で証明の見直しを確認する。 4 個人でノートに証明を記述し、ポイントを動画で記録する。 ◆1) 画面収録と録音機能によって、証明のポイントを動画化する。	◆2) 共有された仲間の説明動画 ・仲間が作成した動画を見比べることで、個人の理解を深めるとともに、他の方法との共通性に着目させ、方法を統合的に考察できるようにする。 ・全体追究では、動画を用いて証明の論理構成を確認したり、教師が数学的な表現を備付けたりすることで、論理的な記述へと高めたい。
深める	5 それぞれの方法の共通点を見だし、まとめる。 ◆2) 共有された仲間の説明動画を見比べ、共通点を見いだす。 ・方法(ア)と同じように、方法(イ)(ウ)では、補助線によって $\triangle EDB$ や $\triangle EDC$ を作り、二等辺三角形の性質を用いている。(イ)も(ウ)も相似な2つの三角形によって、比が等しいこと導いている。 ・方法(ア)も、結局は、相似な三角形を見だして比の性質を利用してとまとめられる。他の証明でも、相似な三角形を見つければ(つくれば)よさそうだ。他の方法でも考えてみよう。	【評価規準】 〈思考・判断・表現〉 補助線によって現れる相似な三角形を示し、根拠となる性質を明確にして証明を書いている。
確かにする	6 確かめ問題に取り組む。 7 本時の学習を振り返り、家庭学習を確認する。	



令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある数学科学習

1 単元について

(1) 教材の魅力

本単元では特に、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめたり、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深めたりすることで、論理的に考察し表現する力を養う。図形の性質や関係を論理的に考察し表現する上で重要なのは、数学的な推論の過程に着目し、既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てていくことである。つまり、既習とのつながりを強く認識し、観点や条件を変えることで発展的に考察したり統合的に捉えたりすることこそ、本教材のおもしろさであり、資質・能力の育成に係る重要な視点であると考えている。

(2) 指導の計画 (第3学年 5章「相似と比」)

時	学習内容	知	思	主
1~6	1節 相似な図形			
7	2節 三角形と比	○		
8	三角形と比の定理	○		
9	平行線と線分の比	○		
10	中点連結定理		○	
11【本時】	三角形の角の二等分線と比		○	○
12	平行線と図形の面積	○		
13	○たしかめよう	◎	◎	
14~16	3節 相似な図形の面積と体積			
17~19	4節 相似な図形の利用			
20	◎章末問題	◎	◎	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

既習の図形の性質や定理を根拠として、新たな図形の性質を論理的に説明する姿。【でさる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 既習の内容を蓄積した単元構想図
- ◆2) 共有された仲間のノート

個別最適な学び

必要に応じて、仲間の考えを参考にして自分の考えをもつ。適宜、仲間や教員に相談する。

iPad上で共有された仲間のノートを比較したり、自分に取り入れたりする。

協働的な学び

資質・能力

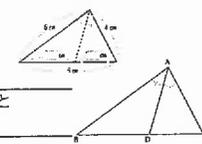
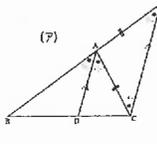
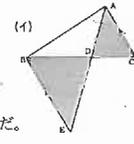
相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、新たな図形の性質を論理的に確かめること。

4 本時について

(1) 本時のねらい

三角形の角の二等分線と比の定理について、図を基に対応する角に印をつけたり、共有された前時までの学習内容を確認したりする活動を通して、補助線によって相似な三角形を見いだすことが大切だと気づき、図形の性質を使って定理を証明することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びのデータ』の活用に関わって
つかむ	0 家庭学習を提出する。 1 課題をもつ。 ・既習の性質の条件を変え、性質（結果）の見直しをもつ。 ・二等辺三角形の頂角の二等分線は、底辺を二等分すると学習した。一般の三角形では、底辺はどのような比に分けられるのだろうか。  <三角形の角の二等分線と比>定理 $\triangle ABC$ で、 $\angle A$ の二等分線と辺BCとの交点をDとすると、 $AB:AC=BD:CD$ である。 ・ $\triangle ABC$ で、 $\angle A$ の二等分線と辺BCとの交点をDとして、定理が成り立つことを証明しよう。	◆1) 既習の内容を蓄積した単元構想図 ・証明の指導では、図を基に相似な図形の対応する角に印をつけたり、これまで学習した定理の中で本時必要な定理を明らかにし、見直しをもってから穴埋め式の証明を行う。
考える	【課題】三角形の角の二等分線と比の定理を証明しよう。(BC:1つの解法は自力でできるようにする) 2 方法(A)を全体で確認し、証明の手順を理解する。 ・点Cを通りADと平行な直線と、BAを延長した直線との交点をEとして $\triangle BCE$ をつくり、二等辺三角形の性質と、三角形と比の定理によって結論を導いている。 	◆2) 共有された仲間のノート ・仲間の証明を見比べることで、個人の理解につなげ、方法(イ)でも同じように図形の性質や定理を使うことに着目していく。 ・全体追究では、ノートを用いてポイントを確認したり、教師が数学的な表現を価値付けたりすることで、証明の記述につなげたい。
深める	3 方法(イ)の証明を、教師の支援を得ながら個人で考える。 ◆1) 既習の内容を蓄積した単元構想図 ・図形の性質や定理を確認しながら、穴埋め式で証明に取り組む。 4 全体で方法(イ)の証明を完成させ、ポイントをまとめる。 ◆2) 共有された仲間のノートと自分の考えを比べる。 ・方法(イ)は、補助線によって $\triangle EDB$ をつくり、二等辺三角形の性質を用いている。相似な2つの三角形によって、比が等しいこと導いている。 	【評価規準】〈思考・判断・表現〉 補助線によって現れる相似な三角形を示し、根拠となる性質を明確にして証明を書いている。
確かにする	5 全体で方法(A)(イ)を比較し、共通点を見いだしてまとめる。 ・方法(A)も、相似な三角形を見だして比の性質を利用している点と同じだ。他の証明でも、相似な三角形を見つければ(つくれば)よさそうだ。他の方法でも考えてみよう。 6 確かめ問題に取り組む。 7 本時の学習を振り返り、家庭学習を確認する。	

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある数学科学習

1 単元について

(1) 教材の魅力
本単元では特に、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめたり、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深めたりすることで、論理的に考察し表現する力を養う。図形の性質や関係を論理的に考察し表現する上で重要なのは、数学的な推論の過程に着目し、既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てていくことである。つまり、既習とのつながりを強く認識し、観点や条件を変えることで発展的に考察したり統合的に捉えたりすることこそ、本教材のおもしろさであり、資質・能力の育成に係る重要な視点であると考えている。

(2) 指導の計画 (第3学年 5章「相似と比」)

時	学習内容	知	思	主
1~6	1節 相似な図形			
7	2節 三角形と比	○		
8	三角形と比の定理	○		
9	平行線と線分の比	○		
10	中点連結定理		○	
11【本時】	三角形の角の二等分線と比		○	○
12	平行線と図形の面積	○		
13	○たしかめよう	○	○	
14~16	3節 相似な図形の面積と体積			
17~19	4節 相似な図形の利用			
20	◎章末問題	◎	◎	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

既習の図形の性質や定理を根拠として、新たな図形の性質を確かめ、納得する姿。【分かる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法
既習の内容を蓄積した単元構想図

個別最適な学び
既習の定理や性質をスライドにまとめ、課題解決に必要な知識を、いつでも確かめることができるようにする。協働的な学び

作成したスライドを基に、証明の根拠を仲間や教師と確認しながら、自分の考えをもつ。

資質・能力

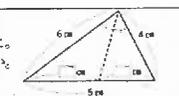
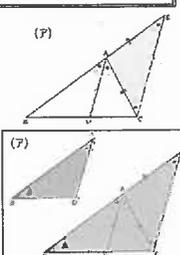
相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、新たな図形の性質を論理的に確かめること。

4 本時について

(1) 本時のねらい

三角形の角の二等分線と比の定理について、既習内容を基にして証明の記述と図を対応させる活動を通して、補助線によって相似な三角形を見いだすことが大切だと気づき、図形の性質を使って定理を証明することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	<p>1 考えようを基に具体的な三角形で辺の比を調べ、課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の頂角の二等分線は、底辺を二等分すると学習した。 一般の三角形では、底辺はどのような比に分けられるのだろうか。  <p>△ABCで、∠Aの二等分線と辺BCとの交点をDとすると、$AB:AC=BD:CD$である。</p> <p>△ABCで、∠Aの二等分線と辺BCとの交点をDとして、定理が成り立つことを証明しよう。</p>	<p>既習の内容を蓄積した単元構想図</p> <ul style="list-style-type: none"> 証明の根拠となる図形の性質や定理を確認できるように、ロイノートのスライド1枚にまとめておく。家庭学習や授業で確めた図形の性質や定理をスライドにまとめることで、いつでも確かめられるようにする。これらを活用して、根拠を確かめながら穴埋め式の証明に取り組むようにする。
考える	<p>【課題】三角形の角の二等分線と比の定理を証明しよう。(C:証明の根拠を明確する)</p> <p>2 方法(ア)の証明を、教師の支援を得ながら全体で完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図を基に、仮定と結論、等しくなりそうな角や辺を確かめる。 <p>【仮定】$\angle BAD = \angle CAD$ 【結論】$AB:AC=BD:CD$</p> <p>△ACEは、二等辺三角形に見えるな。根拠は何か。</p>	
深める	<p>3 図形の性質や定理を確認しながら、穴埋め式の証明に取り組ませる。</p> <p>既習の内容を蓄積した単元構想図を確認し、証明の根拠を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 点Cを通りADと平行な直線と、BAを延長した直線との交点をEとして△ACEをつくり、二等辺三角形の性質を用いている。 ∠BADと∠BECは平行線の同位角だから等しいと言える。 三角形と比の定理を根拠として、結論を導いている。 そして、相似な2つの三角形によって、比が等しいこと導いている。 	<p>【評価規準】〈思考・判断・表現〉 補助線によって現れる相似な三角形を示し、根拠となる性質を明確にして証明を書いている。</p>
確かにする	<p>4 完成した証明の記述と図を対応させて、証明を整理する。</p> <p>5 確かめ問題に取り組む。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、家庭学習を確認する。</p> 	



『学ぶ喜び』のある社会科学習

1. 単元について

(1) 教材の魅力

本単元は、北アメリカ州の自然環境、産業、生活・文化などの基礎的・基本的な知識を身に付けることを通して、自然や人口の分布が産業と関連し、移民の増加が産業や文化と関連していたりすることを学ぶ単元である。また、過去・現在・未来と変容する社会の中、「持続可能も考えさせていく国とは何か」を目指すにはどうすればよいか考えることもねらう。

そのために、本単元のまとめでは、アメリカ合衆国の国の発展と移民の増加という視点から、アメリカ合衆国は今後も移民を増やすべきかどうかを議論する。複数の立場や意見を踏まえ、よりよい社会について多面的・多角的に考察・表現することをねらう。そして、移民についての議論は、人口が減少している日本でも今後行われていくことであり、本時の学びが日本の在り方を考える一歩となると考える。

(2) 指導の計画 (第一学年 第2章 第4節 北アメリカ州)

<p>【本時の学習目標】</p> <p>① 経済・文化の発展と安定した社会の関係を理解し、移民がもたらす影響を考察する。</p> <p>② 多様な文化や価値観を尊重し、持続可能な社会づくりに必要な見方・考え方を学ぶ。</p>	<p>【本時の学習活動】</p> <p>① 前時の個人研究で考えたことをもとに、小集団で交流する。</p> <p>② 全体で交流し、自分の考えと仲間を考えを比較する。</p>
--	---

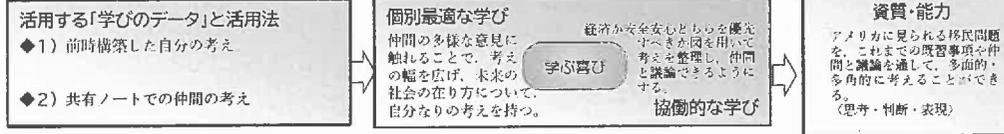
2. 生徒の実態

3. 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

仲間と議論する活動を通して、持続可能な国とは何か自分なりの考えを、根拠をもって説明できる。【仲間と議論し多様な考えに触れる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途



4. 本時について

(1) 本時のねらい

アメリカが今後も移民を受け入れ続けるべきか仲間と議論することを通して、それぞれの価値観が経済・文化の発展と安定した社会づくりであることに気づき、両立させるためには、多様な文化や価値観の尊重し続けていくことが大切であると考える、表現することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びのデータ』の活用に関わって						
1 課題を確認する。	【課題】現在年間100万人の移民を受け入れているアメリカは今後も移民を増やしていくとよいのだろうか。							
2 前時の個人研究での考えをもとに、小集団で交流する。								
3 全体で交流する。	<table border="1"> <tr> <td>思っていること</td> <td>思っていること</td> <td>思っていること</td> </tr> <tr> <td>経済・文化の発展と安定した社会の関係がわからない。</td> <td>移民が増えれば経済・文化の発展は進むが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。</td> <td>移民が増えれば経済・文化の発展は進むが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。</td> </tr> </table>	思っていること	思っていること	思っていること	経済・文化の発展と安定した社会の関係がわからない。	移民が増えれば経済・文化の発展は進むが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。	移民が増えれば経済・文化の発展は進むが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 1) 前時構築した自分の考え <ul style="list-style-type: none"> ・移民に対し、3つの立場から表でまとめ、仲間の考えと比較したり、関連付けたりしやすいようにする。 ◆ 2) 共有ノートでの仲間の考え <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠を明確にし、図で示すことによって、共有ノートを用いれば、一目で誰がどのような考えなのか把握することができる。
思っていること	思っていること	思っていること						
経済・文化の発展と安定した社会の関係がわからない。	移民が増えれば経済・文化の発展は進むが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。	移民が増えれば経済・文化の発展は進むが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。						
4 増やすほうがよいと考える価値を「経済・文化の発展」、増やさないほうがよいと考える価値を安定した社会として、持続可能な国づくりを行う上でどちらを優先すべきか根拠を明確にし、図で示す。								
5 その後、共有ノートを使い、全体で交流し、自分の考えと仲間を考えを比較する。								
	<p>① 経済・文化の発展 ② 安定した社会</p> <p>「経済・文化の発展」 ① 安定した社会も大切だが、アメリカの歴史は移民が支えてきた部分が大きいと考えるため、過去にならって経済・文化の発展をさせたほうがよい。</p> <p>「安定した社会」 ② 経済・文化の発展も大切だが、移民個人が持つ文化や言語・価値観への対応に困るため、安定した社会を重視したほうがよい。</p>							
6 経済・文化の発展と安定した社会であることは豊かな国づくりをするうえで両方大切だとし、両立させるためには「多様な文化や価値観を尊重し、自国のために協力する」ことが大切だと考えられるようにするという。持続可能な国づくりに必要な見方・考え方を学ぶ。								
7 アメリカが今後発展するために必要なことは何か、学びの振り返りをする。								
	<p>【評価規準】〈思考・判断・表現〉</p> <p>アメリカが今後も移民を受け入れ続けるべきか仲間と議論することを通して、それぞれの価値観が経済・文化の発展と安定した社会づくりであることに気づき、両立させるためには、多様な文化や価値観の尊重し続けていくことが大切であると考える、表現している。</p>							
まとめ	<p>例) 最初は移民を増やしたほうがよいという立場でした。理由は、アメリカ合衆国が発展した1つの要因として移民による労働者の影響が大きいと考えたからです。しかし、〇〇さんの意見の移民が増えることで、現地の労働者が職を失う、価値観の違いから社会の安定性が失われるなどの可能性があることに納得しました。アメリカが今後発展するためには移民を受け入れはするが、現地の人の雇用を守ることや、多様な文化・価値観を尊重することが必要だと思う。</p>							

<p>【本時の学習目標】</p> <p>① 経済・文化の発展と安定した社会の関係を理解し、移民がもたらす影響を考察する。</p> <p>② 多様な文化や価値観を尊重し、持続可能な社会づくりに必要な見方・考え方を学ぶ。</p>	<p>【本時の学習活動】</p> <p>① 前時の個人研究で考えたことをもとに、小集団で交流する。</p> <p>② 全体で交流し、自分の考えと仲間を考えを比較する。</p>
--	---

令和5年度 高富中学校 公会堂 学習指導案

『学ぶ喜び』のある社会科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

本単元は、地理的分野(3)日本の諸地域、③「産業を中核とした考察の仕方」について、中部地方を取り上げ、単元を構成したものである。中部地方は、北陸・中央高地・東海の三つの地域に分けられ、三つの地域がそれぞれ異なる地理的条件を活かしながら特色ある産業が発達している。産業の成立条件を、地理的位置や歴史的背景、気候などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察・表現することを目標とする。

岐阜県が属している中部地方の産業がテーマであるため、愛知県の自動車産業や山梨市の水栓バルブ産業など生能にとって身近な産業は多い。しかし、なぜその地域で独自の産業が発達しているのかは知らない生徒が多い。そこで、資料から産業が発達していった理由を調べ、思考ツールなどを使い、考えを可視化し、まとめていく過程で様々な要因が産業の発達に関連しているという概念的知識を獲得できるようにする。

(2) 指導の計画 (第2学年 第3章 4節「中部地方」)

別紙参照

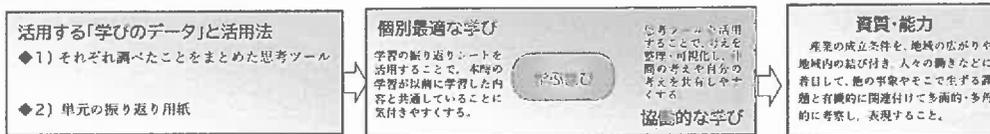
2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

仲間の考えや諸資料から読み取った内容を根拠に、多様な視点から探究し続け、山梨市で水栓バルブ産業が発展し続けている要因が分かる。【分かる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方法



4 本時について

(1) 本時のねらい

山梨市で家庭用水栓バルブ産業が発展し続けている理由を、諸資料をもとに考えることを通して、発展の要因が歴史や自然環境、時代のニーズに合わせた受注・生産などが関連していることに気づき、産業発展の理由を多面的に考察し表現することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	データの活用に関わって
つか	1 課題を確認する 【課題】 私たちが暮らす山梨市で家庭用水栓バルブの生産が盛んなのはなぜか。	
わか	2 予想を全体で交流する。 ・生産に必要な豊富な水資源があるから。 ・広い土地があり、大きな工場を作ることができた。 ・山梨市に生産技術をもった方がいたから。 3 個人追究をする。 ○資料を元に山梨市で水栓バルブ産業が発展した理由を調べる。 ・第二次世界大戦後に美山に水栓バルブ工場が設立されたことが、水栓バルブ産業が根付いたきっかけである。 ・消費者の要望に合わせた商品を作っていることが企業の強みであり、産業の発展につながっている。 ○思考ツール等を活用し、自分の調べたことを整理する。 4 小集団交流を行う。 5 全体交流を行い、要因を整理する。	◆1) それぞれ調べたことをまとめた思考ツール ・生徒は今まで授業で活用してきた思考ツールを選択活用する。その際にロイロノートを活用することで思考を可視化し、思考を整理したり、仲間の考えと比較・関連付けしやすしたりする。
追	【野中】 若内閣で会社経営をしていた方が、第二次世界大戦の空襲で工場が消失してしまい、故郷である美山に水栓バルブ工場を設立したことが始まり。歴史的背景が産業の発展のきっかけになった中央高地の産業と共通している。	
究	【ブランド化】 水資源が豊富であり、「水栓バルブ発祥の地」ともある山梨市で商品を生産しているということが企業のブランド力につながり、利益の増加へとつながっている。	
す	【消費者とのつながり】 他の大企業のような大量生産ではなく、中小企業だからできる消費者のニーズに合わせた受注生産をしている。	◆2) 単元の振り返り用紙 ・これまでの学習振り返りシートがあることで、既習事項を活用し、本時の学びに生かすことができるようにする。
深	山梨市の家庭用水栓バルブの生産が盛んな理由には、第二次世界大戦後に美山に水栓バルブ工場が設立されたことがきっかけとなったこと、水資源が豊富であり、「水栓バルブ発祥の地」である山梨市で生産しているということがブランド価値を生み出していること、消費者のニーズに合わせた受注生産を行っていること、などがある。	【評価規準】〈思考・判断・表現〉 振り返り用紙に、山梨市で家庭用水栓バルブ産業が発展した要因を、歴史や自然環境、時代のニーズに合わせた受注・生産など、多面的に考察し、表現している。
確	6 学習の振り返りを行う。 例) 最初の予想では、水栓バルブの生産に必要な水資源が豊富にあることが、山梨市で水栓バルブ産業が発展した理由だと考えていました。しかし、資料を調べ、意見を交流していく中で、第二次世界大戦後に水栓バルブ産業が根付いたこと、美山という地域で生産しているというブランド力、勝地とともに変化化する顧客のニーズに合った商品を作り出すことができるというものの、このうちの要因が山梨市で水栓バルブ産業が発展した要因だということが分かりました。歴史的背景が産業の発展のきっかけになっていることは中央高地での産業と共通しており、このような要因は他地域の産業の発達でも当てはまると思います。	

5 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

6 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

7 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

8 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

9 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

10 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

11 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

12 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

13 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

14 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

15 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

16 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

17 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

18 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

19 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

20 指導案 観光資源調査 (全学年) 〇観光資源調査 (2学期に学習した観光資源を1学期の学習内容と対照的に調査し、観光資源の活用方法を考える)

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある音楽科学習

1 題材について

(1) 教材の魅力

本教材「風にのって」は、太鼓奏者ヒダノ修一による教科書のために書き下ろされた作品である。前半と後半の2つの部分で構成されており、各部分で地打ちと表打ちの役割が交替され、両方の役割を担当することができる。曲の構成がわかりやすく、地打ちと表打ちの役割を考えて工夫することができる。本教材は、タイトルの「のっ」からイメージを映像として具体的にし、部分ごとや役割ごとに表現の工夫を考える楽しさを味わったり、音楽を形作っている要素にも着目して、班で協同的な学びを通して表現を高めたりすることができる曲である。

(2) 指導の計画 (第3学年「風にのって」[Let's Create])

時	学習内容	知	思	主
1	曲想を理解して演奏する	○		
2【本時】	技能を身に付けて演奏する			
3	曲にふさわしい表現を創意工夫する	↓	○	
4	グループ発表をする	○	技	
5	Let's Create 1	↓	○	↓
6	Let's Create 2	○		○

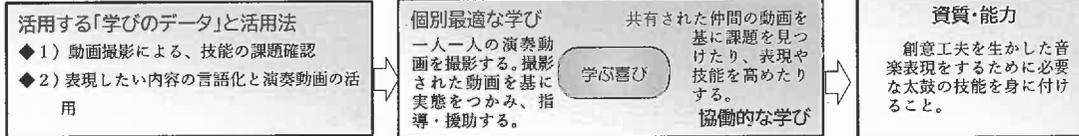
2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本題材や本時における『学ぶ喜び』の具体

自分の思いや意図を実現するために、必要な奏法や身体の使い方を身に付けようとする姿。【思いを音色で表現する喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途



4 本時について

(1) 本時のねらい

太鼓を演奏する活動を通して、自分の思いや意図を表現するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びのデータ』の活用に関わって
つか	0 基本練習をする。 1 課題をもつ。 ○前回までの演奏を2種類比較して聴き、課題を見つける。	◆1) 動画撮影による、技能の課題 ・合奏をするためには、個の技能の習得と仲間の演奏を聴きながら呼吸を合わせることの両面の技能が必要である。2種類の演奏を比較して聴くことで、習得する技能のポイントをつかんで練習に取り組みたい。
か	◆1) 前時の動画撮影による、技能の課題確認 今日の練習ポイント：身体の使い方(腕 肘 下ろす速度) ばちの持ち方 打面の位置 ・唱歌を唱えるリズムや強弱などの特徴をつかめよう。 ・姿勢やばちの持ち方、打面の位置を変えると響きのある音を出せるだろうか。 ・拍を感じて演奏すると2つのパートの打つタイミングを合わせることができよう。	
わ	【課題】自分の思いを表現するために必要な奏法を身に付けよう。	◆2) 表現したい内容の言語化と演奏動画の活用 ・動画では、実際の演奏の息遣いや太鼓の音色などが伝わりにくいため、視覚的に技能を確認する場で使用したい。また、仲間のアドバイスを聴きながら、自分たちの演奏を客観的に確認し、視覚的に言葉をとらえやすいため、有効な手立てとして活用したい。
考	2 班ごとに課題を確認し、練習する。 ◆2) 表現したい内容の言語化と演奏動画の活用 ・唱歌をもっとメリハリをつけて唱えてみると強弱の差が出せよう。 ・力強い音が出ていないのは、打ち下ろす速度が遅いからと分かったので、もっと腕を高く上げて速く下ろしてみよう。 ・唱歌を唱えるときに、息の吸い方やスピードを合わせると2つのパートのタイミングを合わせられるのではないか。 3 中間発表会を行い、班ごとに2回目の動画撮影をする。 ○2つの班でパートごとの演奏を聴き合い、課題についてアドバイスしあう。 ・唱歌の唱え方と打ち方が一致しているので、強弱の差がよくわかる。 ・腕を高く上げて打って力強さが出せているので、次は手首の使い方と打つ位置を変えてみるともっと響き方に差が出てくるのではないかと。 ・唱歌が全員同じバランスなので、パートごとに強弱の差をつけると、アとイの表打ちの役割の変化がわかりやすいと思う。	
え	4 全体で演奏をし、課題を客観的に確認する。 ○全体演奏の中で、グループごとに班の発表を聴き合い、演奏の姿容についてアドバイスしあう。 ・唱歌の唱え方で表現が変わったから唱歌は大事ななあ。 ・アドバイスをもらったことを意識して練習したら、強弱の差がよくわかる演奏になった。	【評価規準】〈知識・技能〉 太鼓を演奏する活動を通して、自分の思いや意図を表現するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 評価方法：演奏、動画
る	5 本時の学習を振り返り、次回の内容を確認する。 ・ロイノートで振り返りをする。	
深		
め		
る		
確		
かに		
す		
る		

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある技術分野学習

1. 題材について

(1) 教材の魅力

本題材では、実践的・体験的な活動を通して、材料と加工の技術の知識・技能を身に付け、生活や社会、環境との関わりについて理解を深め、問題を見いだして課題を設定し解決する力、工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

今年度は設計を重視した教材で、自分の家庭で使える「棚」を製作する教材を選んだ。自分の収納したいものを明確にし、どのような形・大きさにするかを自分で考え、1つひとつの作業を丁寧にやることで、目的に合う自分だけの棚を製作していく。自分の目的に合う作品にするために、工夫してものを作ったり、失敗した部分を改善・修正したり、時間をかけてものを作る楽しさを味わう授業にしたいと考える。

(2) 指導の計画 (第1学年 A 材料と加工の技術)

時	学習内容	知	思	主
1～7	材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	◎	○	◎
8、9	目的・条件の明確化とアイデア構想	◎	◎	◎
10、11	棚の設計	◎	◎	◎
12、13	けがき	◎	◎	◎
14、15、16	切断	◎	◎	◎
17	部品加工 (ベルトサンダ)	◎	◎	◎
18、19	組み立て (くき接合)	◎	◎	◎
20	仕上げ (表面処理)	◎	◎	◎
21【本時】	評価・改善・修正 全体交流	◎	◎	◎
22、23	社会の発展と材料と加工の技術	◎	◎	◎

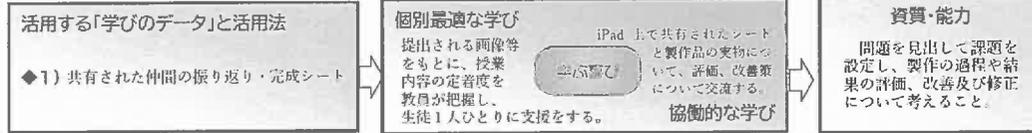
2. 生徒の実態

3. 研究に関わって

(1) 本題材や本時における『学ぶ喜び』の具体

様々な見方・考えから、自分や仲間の製作品を評価し、改善及び修正する姿。【仲間との交流で、自分の考えが深まる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途



4. 本時について

(1) 本時のねらい

完成した作品や振り返りシートを仲間と交流し、評価し合う活動を通して、製作品や解決過程の評価、改善及び修正する方法を考えることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	0 「振り返り・完成シート」の2枚を提出させる。 家庭から収納したいものを持ってくる。 1 課題をもつ ○実物を本棚に入れてみよう。使用目的・条件に沿った本棚になっているか、簡単に評価しよう。 ○収納しなかった漫画がびったりと入る。・棚板が斜めになってしまったので、どうしようか。 ○自分では気付けなかった作品の良さ、課題があるはず。仲間と様々な視点から評価し合おう。 【課題】様々な視点から、仲間と作品を評価し合おう。	◆1) 共有された仲間の振り返り・完成シート ・学級全員の説明資料を共有することで、班の人に限らず、33人全員の作品の良さやこだわりを知ることができる。もっと知りたい、興味がある生徒が最後まで学びたいと思える時間になる。
考える	2 評価する視点(見方・考え方)を明らかにする ①目的・条件: 目的とするものを収納することができるか。置くことができそうか。 ②安全性: 使用する際に、怪我なく使えるか。(角の面取り、釘の押し込み) ③耐久性: 目的のものを置いて、長く使うことができそうか。(構造・釘の数) ④機能性: ガタガタしないか。基準面に対して垂直になっているか。 ものを収納しやすいか。面取りがしてあるか。丁寧に塗装されているか。 ①振り返り・完成シート ②③④実物の製作品を参考に評価する。	・これまでの学習振り返りシートがあることで、実物を見ただけでは分からない、製作者の目的・条件や工夫点についても知ることができる。評価し合う際の1つの要素になる。
深める	3 シート、製作品を見て、評価カードを送り合う。 ○視点に沿って、良い点だけでなく、改善点・修正点などを送り合う。 ・目的のものが入るようになっていて良い。仕切りをいれれば、本が整理しやすくなると思う。 ・釘が最後まで押し込めていなくて危ないので、げんのうで打ち直すといい。 ◆1) 製作者の目的・条件や、工夫した点について、シートを見て評価し合う。	【評価規準】〈思考・判断・表現〉 仲間の意見を取り入れ、自分の使用目的・条件に沿って、製作品や解決過程の評価、改善及び修正を考えている。
確かにする	4 カードを仕分けし、自分の考え、振り返りを記入する。 ○仲間から貰ったカードを視点ごとに分け、もらったアドバイスを参考にしながら振り返りを書く。 漫画を入れる棚を製作して、棚板の高さを考えたり、怪我をしないように面取りを丁寧にしたりして、家庭で使いたいと思える作品を作ることができました。私は山県さんから、棚がガタガタしていて安定感がないとの評価をもらいました。だから、家に持ち帰ったら、棚の下に薄いクッションなどを入れて安定感を出させたいです。(修正するならば...)	
	5 本時の学習を振り返り、次週の授業につなげる。	



令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある英語科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

本単元では、メグへのサプライズパーティーを準備する海斗が、気づかれないように電話でメグを誘う場面から始まる。朝美と共にパーティーの準備をし、実際にメグを驚かせる場面が続く。本単元で扱う言語材料は、現在進行形(肯定文、疑問文とその応答)及び感嘆詞である。本文には電話での会話やビデオでの撮影など、現在進行形が自然に用いられる場面が設定されている。本単元を通して、現在の状況を伝えたり、絵や動画の中の人物の動作を示したりするなど、写真や動画の様子を相手に伝える力を定着させたい。

私は、ある場面を他者に説明したり、伝えたりするやり取りは、他者との対話の中で頻繁に起こり得るやり取りであると考え、従って、この課題に即興で取り組むことは、英語を『使える喜び』となり、本単元に感じさせたい『学ぶ喜び』となると考える。

本時は、本授業までに習得した言語材料を大いに活用し、数枚の写真や動画の内容を小学校6年生に伝える。6年生が聞いた後に中学校での生活が楽しめるような発表するには、何をどう伝えるか即興で判断する力も試される。生徒が苦戦しながらもレポートする姿を大切にしたい。

(2) 指導の計画 (第1学年 Unit8 「A Surprise Party」)

時	学習内容	知	思	主
1	Starting Out / Preview			
2・3	Story1 (現在進行形)			
4・5	Story2 (現在進行形の疑問文)			
6	Mini Activity			
7・8	Story3 (感嘆詞)			
9	Unit Activity	○		
10 (本時)	Unit Activity		○	
11	Unit Activity		○	○
12・13	単元テスト・パフォーマンステスト	○	○	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

高富中学校の様子を撮影した写真や動画を見ながら、即興で様子をレポートすることができる。【使える喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用するデータと活用法

- ◆1) コミュニケーションの基となる写真や動画、スライド
- ◆2) 音声入りのテキスト

個別最適な学び

共有された情報を参考にしたり、既習内容を参考にしたりして、自分のに合わせた発表に挑戦する。

仲間と交流する中で、仲間の表現を吟味したり、仲間の表現を活用したりしながら、自分の表現をよりよいものに修正する。協働的な学び

資質・能力

自分が伝えたい中学校の様子を、既習事項を駆使して、即興で伝えること。

4 本時について

(1) 本時のねらい

仲間が実況する学校生活の様子を交流する活動を通して、学校がより魅力的に伝わるようにするには自分の英語表現をどのように改善したらよいかに気づき、学校の様子を即興で伝えることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	0 Routine works 1 Oral Introduction ・小学6年生が、実際に中学校生活で楽しみにしている内容についてのアンケート結果を見せる。 <お題> 小学校6年生の子たちが、高富中学校について知りたがっています。中学校の日常生活で6年生に伝えたい内容を英語で伝えましょう。(6年生の子が知らない情報や6年生の子にとって、高富中学校での生活が楽しめるような情報を伝えられるといいですね！) 2 課題設定 (生徒は、事前に指定されたいくつかのテーマに沿った写真や動画を用意している) 【AIM】 Let's tell 6grade students about our school!	◆1) 高富中学校の様子を撮影した写真や動画を見て、話したいことをまとめる。 ・高富中学校の生活の様子がわかる写真や動画を用いる。各々が伝えたいことを伝えるようにする。 ◆2) 自分の音声録音されたシートを活用したディクテーションをする。 ・書きまとめる前に、書き内容を話して録音する。その後、録音した内容を聞き、エラーを修正しながら、英文を書く。
考える	3 本時の活動 ○Sharing1 ◆1) 高富中学校の様子を撮影した写真や動画を見て、話したいことをまとめる。 ・どんなことを伝えることができそうか、共有ノートを使用して、意見を交流する。 ・伝える内容を英語で話すイメージをもつ。 ○Modeling ○Sharing2 ◆1) 仲間と交流しながら、自分の英語表現を構築する。 ・3人グループで順番に発表する。×3 ・発表後は互いに良さも含めて、アドバイスをする。 ○仲間交流 ・写真だけではわからない様子を伝えている生徒の表現を価値づける。 ・小学生の立場で発表を聞いたとき、小学生にとって、ネガティブな印象を与える内容になっていないか振り返ることができるようにする。 ○Sharing3 ◆1) 仲間と交流しながら、自分の英語表現を構築する。 ・ペアで順番に発表する。×2 ・発表後は互いに良さも含めて、アドバイスをする。	【評価規準】〈思考・判断・表現〉 話すこと〔発表〕イ 学校の様子を実況したり、自分の考えを入れてレポートしたりして3文以上のまとまりのある内容を伝えている。
深める	4 Recording & Writing ◆2) 自分の音声録音されたシートを活用したディクテーションをする。 ・今日話した内容を話して録音する。録音したことを聞きながら、書きまとめる。 ・正しい文法を使って、文章を書くことができているか、仲間と確認し合う。 5 本時の振り返り ・みんなの前で交流する。	Hello, I am Soho. I am a Takatami JHS reporter. Look. This is the classroom. It's 1 p.m. They are cleaning. They clean for ten minutes after lunch. Thank you.

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある国語科学習

1 教材について

(1) 教材の魅力

本単元は自分が感じた美術作品の魅力、表現を工夫して効果的に読み手に伝えることをねらいとした教材である。生徒が感じた「きれい」「カッコいい」「すごい」などの感覚的な言葉を入口として、より具体的にかつ論理的に自分の感じた作品の魅力伝える。これまでに「思考のレッスン」で学習した「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」「根拠の吟味」や、説明的文章の学習を通して積み上げた思考や表現の仕方を活用して、伝えたいことが効果的に伝わる文章を書くことを目指す。この教材の魅力は、その子の感性を大切にしながら論理的な鑑賞文の書き方を学ぶことができることだと考える。「自分が考える作品の魅力が読み手にも伝わった。」つまり論理的な文章を書くことができたという実感は、「学ぶ喜び」につながると考えている

(2) 指導の計画 (第2学年 「魅力を効果的に伝えよう」)

時	学習内容	知	思	主
1【本時】	マッピングをした中から魅力の伝わる要素を選ぶ。	○	○	
2	共通課題で鑑賞文を書く練習をする。		○	
3	自分が選んだ絵画の鑑賞文を書く。		◎	
4	鑑賞文を読み合い、評価し合う。		◎	○

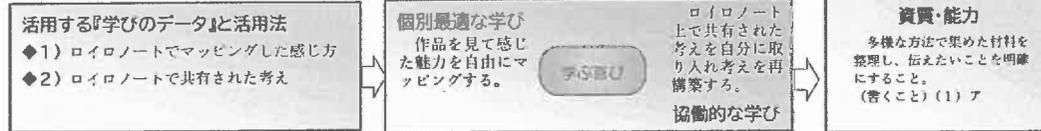
2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

自分の感じた魅力を表現する言葉を吟味する姿。【高まる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途



4 本時について

(1) 本時のねらい

美術作品の魅力のマッピングで広げる活動を通して、作品の魅力の効果的に表すための観点や感じたことを表す言葉があることに気づき、魅力を伝えるためにより効果的な表現を選ぶことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びのデータ』の活用に関わって
つかむ	<p>1 単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の魅力の効果的に伝えたいな。 二百字程度で書くのだな。 最後に鑑賞文をクラスで見合うのだな。 <p>2 モデル文を見て、鑑賞文について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞文を書くためには、マッピングで感じたことをたくさん書き出すよいのだな。 マッピングした要素の中から魅力が伝わるものを選ぶと鑑賞文が書けるな。 自分の感じた作品の魅力をクラスの子が見ても伝わるように表現したい。 	
考える	<p>【課題】 マッピングした中から魅力が伝わる表現を選ぼう。</p> <p>3 作品を鑑賞するポイントを知り、絵を鑑賞する。</p> <p>◆1) ロイロノートでマッピング</p> <ul style="list-style-type: none"> 何が描かれているかな。 淡い色を使っている、柔らかな印象を受けるな。 絵の外に広がる世界も想像できるな <p>5 仲間と交流する。</p> <p>◆2) 共有ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 淡い色を使っている。そうすることで、明るい雰囲気伝わってくる。 広く、青い空と草原が広がっている。さわやかな匂いがしていそう。 	<p>◆1)ロイロノートを使ってマッピングした感じ方</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品を鑑賞したときに感じたことを自由にマッピングできるようにする。 <p>◆2)共有ノートを使ってマッピングした仲間との考え</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間と協働してマッピングをすることで、自分だけでは感じるできなかった作品の魅力を知ることができるようにする。
深める	<p>6 鑑賞文に書く表現を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色使いについて魅力を感じたから、淡い色、明るい雰囲気、さわやかな匂いを選ぼう。 <p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分だけでは考えつかなかった作品の魅力をたくさん見つけることができた。 はじめは、「きれい」とか「カッコいい」とか自分の感情をそのまま表現していたけれど、「さわやかな匂い」など感情が伝わるような言葉に置き換えることができた。 	<p>【評価規準】〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> マッピングした中から、絵画の魅力が伝わる表現を選んでいる。 (書くこと) (1) ア
確かにする		

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある国語科学習

1 教材について

(1) 教材の魅力

本教材は、「自分とは何か」「自立とは何か」「責任とは何か」と筆者が次々に言葉を投げかけ、自らの在り方、社会の在り方について考えていく論説である。既習の説明文や論説などと比べて、抽象度が高く、言葉で言葉の概念を規定し、具体的な事例を示さずに展開する文章表現は、難解だと感じる生徒も少なくないだろう。これから自分の進路を考えて自分で選択していかなければならない時期であるため、難しいことにも立ち向かわせたい。そこで、抽象的な語句に対する筆者の捉えを、外国語との比較や、言い換えていく論法を吟味することを通して、人や社会の在り方に対する筆者の考えを捉えさせていく。難解な文章でも、既習の学習を生かし、文章の構成や言葉のもつ意味などに着目して読んでいくことで理解することができた達成感は、生徒にとっての『学ぶ喜び』になると考える。

(2) 指導の計画 (第3学年 「誰かの代わりに」)

時	学習内容	知	思	主
1	文章の構成を整理し、筆者の考えに対する自分の意見をもつ。 (学びに向かう力・人間性等)	○		○
2【本時】	抽象的な語句について仲間と意見を交流し筆者の考えを理解し、具体的な事例をあげて自分の言葉で説明する。 (思考力・判断力・表現力等)		◎	
3	社会や人間に対する筆者の考えについて、自分の考えをまとめる。 (思考力・判断力・表現力等)		◎	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

抽象的な筆者の考えについて、論理の展開や表現の仕方に着目して仲間と繰り返し、考えを深める姿。【考えが深まる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 家庭学習で取り組みロイロノートに提出した自分の考え。
- ◆2) ロイロノートで共有した仲間の考え。

個別最適な学び

提出された家庭学習の定着状況をもとに自分の課題を選択する。

学ぶ喜び

ロイロノートで共有された考えについて、整理し、考えをチームで再構築する。
協働的な学び

資質・能力

文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えること。(読むこと(1)イ)

4 本時について

(1) 本時のねらい

抽象的な語句について仲間と意見を交流する活動を通して、論理の展開や表現の仕方に着目することの大切さに気づき、筆者の考えを正しく理解し自分の言葉で説明することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つ	0 家庭学習で課題について自分なりの考えをもって授業に臨むことができるようにする。	◆1) 家庭学習で取り組みロイロノートに提出した自分の考え。 ・家庭学習を活用して、教科書の本文を読む回数を増やし自分なりの考えをもつ時間を確保する。 ◆2) ロイロノートで共有した仲間の考え。 ・学級全員の交流前のノートをいつでも見ることができるようにしておく。事前に仲間の考えを見てよいことを伝えておく。そうすることで、課題別の交流時に自分たち以外の仲間がどう考えているのかを参考にして、さらに繰り返しを深めることができるようになる。
か	◆1) 家庭学習で取り組んだ自分の考えをロイロノートに提出する。 1 課題を確認する。	
わ	【課題】文章の構成や表現の仕方に着目し筆者の考えを理解して、自分の言葉で説明しよう。	
考	2 一番自分の考えを深めたい言葉別でグループ交流する。	【評価規準】〈思考・判断・表現〉 筆者の考えを正しく理解し、自分の言葉で説明している。
え	◆2) 共有された仲間のノート 「無条件の肯定を求める」チーム ・「無条件の肯定を求める」とは、ありのままの自分を認めてくれる人を求めること。これは、自分の存在の意味や理由を常に相手に求める受け身の存在になるから「ちょっと危うい」と述べている。つまり、今の社会は自分の存在の意味を自分で証明しなければいけない社会だから、自分を認めてほしいと願うのは仕方がないが、自分でもできなくなる可能性があり危険だということ。	
る	「自立」と「独立」チーム ・筆者のいう「自立」とは、他人と支え合うことができるネットワークをいつでも使える状態にしておくこと。「独立」とは、誰にも依存せず、誰にも頼らずに生きること。つまり筆者は、だれにも頼らずに生きることではできないから、自分ができないときに代わりに支えてくれる人がいる状態をつくっておくことが大切だと述べている。	
深	「依存」と「支え合い」チーム ・筆者のいう「依存」とは、自分が受け身の存在になること。「支え合い」とは他の人たちと関わり合い補い合うこと。だから、「依存」は一方向的に何かをしてもらうだけだが、「支え合い」はお互いに助け合うということです。例えば、家族みんなが病気で家から出られなかったときに、母の友達が食材を届けてくれたりすごく助かったことがあった。それだけなら「依存」だが、逆の立場になったときには、頼まれたわけではなくても母が届けていた。これが「支え合う」関係だと思ふ。	
め	『誰かの代わりに』という意識 チーム ・筆者は、どんな時でも困難を一人で抱え込まずに誰かに支えてもらったり、自分も誰かを支えたりできる安心感がある社会であるべきだといっている。人は他の人たちと関わり支え合うことで、自分の存在の意味を感じることができる社会を、「誰かの代わりに」という言葉で伝えていると思う。	
確	3 生活班に戻り、筆者の考えをそれぞれが発表して、確かめ合う。	◆1) 家庭学習で取り組みロイロノートに提出した自分の考え。 ・交流前と交流後での自分の考えの変容を自分で確認する。
かに	4 自分のノートを修正し、まとめる。 ◆1) 家庭学習で取り組んだ自分のノート	
す		

「誰かの代わりに」 意識することの 重要性	「自立」と 「独立」の 違いを 理解する	「依存」と 「支え合い」 の違いを 理解する	「誰かの代わりに」 という意識の 重要性	言葉
↓	↓	↓	↓	筆者の考え ↓ 言い換え

『学ぶ喜び』のある数学科学習

1 単元について

(1) 教材の魅力

本単元では、具体的な事象の中から伴って変わる2つの数量を取り出して、その変化や対応の仕方に着目し、関数関係の意味を理解できるようにする。特に、比例・反比例の学習は、日常生活において数量間の関係を探る基礎となるものになる。小学校で学習した内容をもとに、変域を負の数まで拡張して、関数の考えを用いて捉え直す。

「具体的な事象の問題を比例の考えを使って解決する」という『使う喜び』こそ、本時で実感させたい『学ぶ喜び』であると考え、この喜びを実感することで、生徒の学ぶ意欲を高め、より統合的・発展的な考えを育てるようにしたい。

(2) 指導の計画 (第1学年 4章「量の変化と比例、反比例」)

時	学習内容	知	思	主
1	1節 ともなって変わる2つの量	○		
2	2つの数量の関係の調べ方	○		
3	2節 比例の意味	○		
4	比例と比例定数		○	○
5	座標	○		
6~8	比例のグラフ、グラフの特徴、グラフの書き方	○	○	○
9	比例の式の求め方		○	
10	たしかめよう		○	○
11~16	3節 反比例			
17 [本時]	4節 進捗の様子を調べよう		○	○
18	身のまわりの問題への利用		○	○
19	図形への利用		○	○
20	4章を振り返ろう	○	○	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

具体的な事象の問題を比例の考えを使って解決する姿。【使う喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方法

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 既習の内容を蓄積した単元構想図
- ◆2) 自分や仲間への考え

個別最適な学び

学習内容の定着状況に応じて、既習の内容を蓄積した単元構想図を活用しながら課題解決に取り組む。

同様の仲間との交流をもち、問題への理解を深める。
協働的な学び

資質・能力

数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表・式・グラフなどで考察する力。

4 本時について

(1) 本時のねらい

身のまわりの事象について、距離の差を求める活動を通して、事象の中から関数関係にある2つの数量を見だし、表・式・グラフを用いて変化の様子や対応の特徴を捉えることが大切だと気づき、比例の考えを用いて問題を解決することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	<p>1 課題をもつ。</p> <p>〈問題1〉学校から東へ2400m離れた東公園まで、同じ道をAさんは自転車、Bさんは歩いて行きました。5分後の2人の距離の差を求めましょう。</p> <p>・グラフから原点を通る直線であることが分かるので、時間と進んだ距離が比例の関係になりそう。</p> <p>【課題】比例の学習をもとに、距離の差を求めよう。</p>	<p>◆1) 既習の内容を蓄積した単元構想図・問題解決するうえでの根拠を探すために活用する。今までの学習内容をまとめたスライドを用いることで、それぞれの内容やつながりが視覚的に分かるようにする。</p> <p>・仲間との交流の際にスライドを指し示しながら説明できるようにする。</p>
考える	<p>2 全体や個人で距離の差を求める。</p> <p>◆1) 既習の内容を蓄積した単元構想図をもとに考えをもつ。</p> <p>・比例は$y = ax$と表される。グラフから読み取れる座標、例えば$x = 15$、$y = 1200$を代入して比例定数を求める。求めた式に$x = 5$を代入して求められるyの値が5分後のBさんの進んだ距離になる。</p> <p>・グラフから5分後のAさんの進んだ距離は分かるので、5分後のAさんとBさんの距離を引いた差が答えになる。</p> <p>〈問題2〉Aさんが学校を出発したのと同時にCさんは分速180mの速さで、学校から西へ1800m離れた西公園に走って行きました。Cさんの進捗の様子を表・式・グラフで表しましょう。また、AさんとCさんの5分後の距離の差を求めましょう。</p> <p>・Cさんは進んでいる方向が西である。東を+としているので、西は-になる。よって$x = 1$のとき$y = -180$になる。グラフを書く時は変域にも気をつけよう。</p> <p>・Cさんの5分後の距離はグラフから読み取れるので、5分後のAさんとCさんの距離を引いた差が答えになる。</p>	<p>◆2) 自分や仲間への考え</p> <p>・読み取りが不十分な生徒でも、仲間の気付きや疑問をもとにして新たな問題解決に取り組んでいく足掛かりにできるようにする。</p> <p>・自分以外の様々な気付きや疑問を知ること、発展的に考察できるようにする。</p>
深める	<p>3 他に読み取れそうなことを交流する。</p> <p>◆2) 他に読み取れそうなことを共有し、気付きや疑問を仲間と交流する。</p> <p>・AさんとBさんの速度はそれぞれ分速240m、分速80mと分かるね。</p> <p>・Aさんが東公園に行った時のBさんの位置も分かるのかな。</p>	<p>【評価規準】〈思考・判断・表現〉</p> <p>表・式・グラフを用いて、身のまわりの事象についての問題を解決している。</p>
確かにする	<p>4 本時の学習をもとに、家庭学習を確認する。</p> <p>・3の活動で共有された読み取れそうなことをロイノート上の提出箱から自分で選んで家庭学習で調べる。</p>	



令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある理科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

この単元は、物体に力をはたらかせる観察、実験を行い物体に力が働くと物体が変形したり動き始めたり、運動のようすが変わったりすることや、力は大きさと向きによって表されること、物体にはたらく2力のつり合う条件を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることが目標となっている。

力の大きさは直接目で見ることができないため、間接的にばねの伸びなどを使って表さなければならない。そのため生徒の中には力のイメージを頭の中で作り出すことができず、学習内容がわかりづらくなっている。そのためこの単元では具体的にイメージを作ることができるように、できるだけ多くの実験を行い、より具体的な力のイメージを作ることにより、力の世界をより深く理解できるようにしていきたい。

(2) 指導の計画 (第1学年 単元3 第3章 力の世界)

時	学習内容	知	思	主
1	身の回りで見られる現象について、力がはたらいていると考えられるものを探す。		○	
2	垂直抗力、弾性力、摩擦力、重力、磁力、電気力について確認する。			○
3	力の単位はニュートンであることを知り、力をどう表したらいいか考える。		◎	
4 本時	ばねにおもりをつるし、ばねの伸びと力の大きさの関係を調べる。		○	
5	実験の結果をもとに、自分の考えをまとめ、確認する。	○		
6	力を矢印で表す方法を知り、いろいろな場面での力を表せるようにする。	◎		
7	2つの力が1つの物体にはたらいているのに物体が動かないときの2つの力の関係を考えることができる。			◎
8	力のつり合いについて自分の考えをまとめ、つり合う条件について知る。	◎		

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

ばねに重りをつるしてばねの伸びと力の大きさの関係を調べ、ばねの伸びは加わる力の大きさに比例することを見出す姿。【見つける喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方法

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 既習学習
 - ・重力と力の関係・比例の意味を確認し、活動をスムーズにしたい。
- ◆2) 各班の実験結果とグラフ
 - ・グラフのかき方を思い出すことで、原点を通る直線をかき、それから考察をしたい。

個別最適な学び

自分たちの班の実験結果からグラフを作り、力と伸びには関係があることをみつける。

自分の結論をもとに話し合い、違うばね(他の班の結果)でも同じような関係があることがわかる。
協働的な学び

資質・能力

ばねの伸びを適切に測定し、グラフをかきこと。読み取った考察を交流しあい、より深く学ぶことができる力。

4 本時について

(1) 本時のねらい

3つのばねの力と伸びの関係を調べる実験を行う活動を通して、力と伸びには比例関係があることに気づき、気づいた性質は、どのばねにも当てはまることを話し合いによって見つけることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	1 既習内容を確認する ◆ 既習学習の確認と活用法 ・グラフのかき方 ・重力と力の関係 ・比例の意味 ・誤差の考え方	◆ 既習学習の確認と活用法 ・重力と力の関係についてはわかりやすく黒板に掲示しておく。 ・グラフのかき方の提示 (あらかじめグラフ用紙を用意し、ロイロノートで配布する。生徒はこの用紙を使ってグラフを作る。) ・比例の意味の確認 グラフが原点を通る直線になる ・誤差の意味 実験結果には必ず誤差が含まれる。そのため、グラフの点はある程度の大きさがあってもよい。
考える	2 課題をもつ 【課題】ばねを引く力とばねの伸びには、どのような関係があるだろうか。 予想し、実験方法を考える(それぞれのばねを見たり触ったりしてみる)。 ・ばねに触り、力を入れるとよく伸びることを予想する。 ・ばねの伸びに注目して実験方法を考える。 実験(ばねA Bそれぞれのばねの伸びを測定する) ・班内で役割分担をして実験をする。(保護メガネ着用) ・実験結果はタブレットに記録する。 ・実験後は片付けをした後、グラフの作成に取りかかる。 ・測定した結果とグラフは学級で共有する。	◆ 共有された実験結果 ・測定結果とそれを用いたグラフの結果のデータを集約する。(黒板とタブレット両方に) ・黒板やタブレットにある結果により、生徒相互の協働的な学び(話し合い)の中で、考察を深めることを図りたい。
深める	3 班内で考える・全体で交流する ◆ 共有された実験結果 ・実験の結果をもとにグラフを作成する。(班内でグラフのかき方を確認しあう。) ・結果をタブレット内で共有する。 ・ほかの班の結果も参考にしながら結果を考察する。(結果には誤差が含まれていることを考える。) ・グラフからどのばねにも力と伸びには比例関係があること	【評価規準】〈思考・判断・表現〉 ばねの伸びは、おもりの数(力の大きさ)が大きくなると大きくなる(比例関係がある。)と言っている
確かにする	4 本時のまとめと振り返り ・ばねの種類に関係なく、ばねを引く力とばねの伸びには比例関係がある。	



令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある理科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

本単元では、電源と抵抗器をつないだ回路で、抵抗器に加える電圧と流れる電流の大きさとの関係を調べる。調べる中で実験の条件制御を生徒が明確にして実験方法を考え、実験を行うようにする。

本時では、実験結果をグラフに整理すると「比例関係にある。」と気づく生徒が多い内容だと考える。この段階でとどまらず、種類の違う抵抗器では電流の流れやすさに違いがあるということや抵抗器に流れる電流の大きさは、抵抗器に加わる電圧の大きさに比例するという正しい関係性に気づかせたい。また、説明することで学びの深まりを実感するとともに、学ぶ喜びを感じられるようにしたい。

(2) 指導の計画 (第2学年 2章「電流の性質」)

時	学習内容	知	思	主
1	回路に電流が流れるための条件を確認する。	○		
2	豆電球 2 個で直列回路と並列回路で明るさの違いや豆電球を1つ外したらどうなるかを説明している。	○		
3	直列回路と並列回路の各点に流れる電流の大きさの予想と理由を考える。			○
4	直列回路と並列回路の各点に流れる電流の大きさの関係性を見出す。		◎	
5	直列回路と並列回路の各点間に加わる電圧について調べる。	○		
6	直列回路と並列回路の各点間の電圧を測定し、各点間の電圧値の関係性を調べる。			◎
7	水流モデルを活用して抵抗の直列回路と並列回路における電圧の関係を理解する。	◎		
8	回路に加える電圧と流れる電流の大きさの関係性を調べる。		◎	
9【本時】	抵抗器に加える電圧を変化させたときの電流の大きさを調べ、結果をグラフに書き、電圧と電流の関係性を調べる。		◎	
10	オームの法則を再確認し、正しく計算する。	◎		
11	抵抗の直列回路と並列回路において抵抗値の関係性を見出す。		○	
12	電気製品の消費電力を調べ、電圧と電流が大きくなると電力も大きくなることを理解する。	○		
13	電力と上昇温度の関係を実験結果から見出す。		◎	
14	電力量を求める式と電力量の単位について理解する。			◎

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

実験結果のグラフから規則性や抵抗によって電流の流れやすさに違いがあることに気づき説明する姿。[深まる喜び]

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方法

活用する『学びのデータ』と活用法

◆各班の実験データ

個別最適な学び
電圧と電流の関係性や抵抗による流れやすさの違いについて仲間の意見を聴き自分の考えを再構築する。

協働的な学び
各班が集まった実験結果をもとに自分の班の結果の妥当性を他の班の仲間と交流しながら気になった班の生徒と交流する。

学び喜び
各班が集まった実験結果をもとに自分の班の結果の妥当性を他の班の仲間と交流しながら気になった班の生徒と交流する。

資質・能力

電圧と電流の関係性を見出して理解するとともにグラフを用いて説明する力

4 本時について

(1) 本時のねらい

抵抗器に流れる電流と電圧を調べ、グラフに整理する活動を通して、電圧と電流の規則性があることに気づき、抵抗器によって電流の流れやすさが違うことや電流は電圧に比例していることをグラフから説明することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びのデータ』の活用に関わって
つかむ	1 手回し発電機の実験を見て、予想と課題の確認をする ・加える電圧を大きくしたら流れる電流も大きくなるだろう。 ・電圧を大きくしたら流れる電流も大きくなるし、変化のしかたにも決まりがあるのかな。 【課題】 回路に加える電圧と流れる電流の大きさにはどのような関係があるのだろうか。	◆各班の実験データ ロイロノートの共有ノートで実験をしながら得られた数値を記録していく。他の班の実験結果を実験中に確認できるようにすることで、自分たちの実験結果と比較して考えながら実験したり、実験し直したりなど主体的に追究する姿を目指す。また、各班の実験データを共有ノートで確認することで生徒自身が実験結果の妥当性を見だし、主体的な追究、考察ができるようにしたい。
考える	2 2種類の抵抗器で実験を行う 抵抗器 A (10Ω) ・加える電流を大きくしていくと流れる電流の量も大きくなったぞ。 ・電流の増え方にも規則性がありそうだ。 抵抗器 B (20Ω) ・加える電流を大きくしていくと流れる電流の量も大きくなったぞ。でも A と比べると流れる電流の量が少ないぞ。 3 結果をグラフにまとめる ◆各班の実験データ。 ・抵抗器 A、抵抗器 B のどちらも電圧を大きくすると流れる電流は大きくなった。 ・抵抗器 A と抵抗器 B だと抵抗器 A のほうが、電流がより多く流れていると言える。 ・共有ノートを見るとほかの班も加える電圧を大きくすると流れる電流は大きくなっている。 ・ほかの班と実験結果が同じだからこの結果が正しいぞ。グラフに整理してみよう。 4 考察する ・抵抗器 A から抵抗器 B に流れる電流の大きさは、抵抗器に加わる電圧の大きさに比例している。 ・抵抗器 B でも同じことがいえるぞ。 ・抵抗器 B より抵抗器 A のほうが同じ電圧でも流れる電流の量が多いから流れやすさが違うのかな。 5 考察を交流する。 ロイロノートの提出箱に出された考察を交流する。気になった子には話を聞きに行く時間をとる。 6 ロイロノートを活用して本時の学びを説明する ・グラフから抵抗器 A、B はどちらも加える電圧を大きくしたら流れる電流の量が大きくなった。また、グラフが原点を通る直線であることから抵抗に流れる電流は抵抗に加わる電圧に比例しているといえる。同じ電圧を加えても抵抗器 A のほうが多く電流が流れていることから抵抗器によって流れやすさに違いがあると考えられる。	
深める		【評価規準】《思考・判断・表現》 電圧と電流の間には規則性があり、流れる電流は加える電圧に比例していることをグラフから説明している。(グラフ、ロイロノートの記録)
確かにする		



『学ぶ喜び』のある社会科学習

1 単元について

(1) 教材の魅力

本単元は、国の政治よりも身近な地方の政治は民主主義の学校とよばれており、住民の意思がより強く反映され、住民主体の街づくりが進められていることを実感とともに学ぶ単元である。

本時では、山県市の特色を生かしながら、課題を解決するためには、どうすればよいかを、具体的な予算割合を用いて考える。表計算ソフトを使用し、自分の考えを可視化し論理的に考えられるようにする。このように市の予算担当の方の思考を辿ることで、予算配分の見方・考え方を学ぶことができ、それが多面的・多角的に考えることにつながるかと考える。

(2) 指導の計画

<p>【学習目標】</p> <p>1. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p> <p>2. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p> <p>3. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p>	<p>【学習活動】</p> <p>1. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p> <p>2. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p> <p>3. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p>	<p>【評価】</p> <p>1. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p> <p>2. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p> <p>3. 山県市の現状と課題を把握し、山県市の未来に向けた予算案の作成を行う。</p>
--	--	--

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

「山県市の未来」を具体的に構想し仲間と議論することを通して、自分の考えの広がりや深まりを実感することができる。【学びを実感できる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する『学びのデータ』と活用法

- ◆1) 前時までに構築した自分の考え(蓄積されたデータ)
- ◆2) グラフ化された自分の考え(即時性のあるデータ)

個別最適な学び

既習事項をもとに、自分が考える「山県市の未来」の予算割合をグラフ図に表し、自分の考えをもつ。

学ぶ喜び

iPad上で共有された『山県市の未来』の予算割合のグラフを自分の考えと比較して考えを深める。協動的な学び

資質・能力

山県市の四大重点政策である「教育・防災・町おこし・健康・福祉」を軸とした予算を用いて、妥当性・効果・実現可能性を踏まえて配分を考えることを通じて、山県市の未来に向けた予算案をグラフ図で表現することができる。

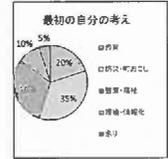
4 本時について

(1) 本時のねらい

山県市における四つの重点政策に対し、それぞれどのような配分で予算を計上すればよいか考えることを通じて、公正と効率の視点をもってバランスよく予算配分することが重要であると気づき、山県市の未来に向けて多面的・多角的に考察して予算を配分し、図で示して表現することができる。

(2) 本時の展開

指導過程	学 習 活 動	『学びのデータ』に関わって												
課題設定	<p>1 課題を確認する</p> <p>どうしたら、未来に向けた山県市の予算案になるのだろうか。</p> <p>2 前時の個人探究でもった未来に向けた山県市の予算配分の図をもとに、協同学習を行う。</p>	<p>◆1) 前時までに構築した自分の考え・表計算ソフトを活用し、数値を打ち込めば勝手にグラフ化するようにしておくことで、自分の考えをもちやすいようにする。</p> <p>◆前時にもった自分の考えをグラフ図で表し、自分の考えを話し合いで変換することで、仲間の考えと比較したり、関連付けたりすることで、自分の考えを広げ深めることができるようになる。</p>												
全体発表	<p>最初の自分の考え</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>教育</td><td>23.0</td></tr> <tr><td>防災・町おこし</td><td>34.0</td></tr> <tr><td>健康・福祉</td><td>16.0</td></tr> <tr><td>環境・情報化</td><td>10.0</td></tr> <tr><td>その他</td><td>17.0</td></tr> </table> <p>私は教育と防災・町おこしに多くの予算を使いたいと思います。山県市は、学校給食無償化事業や保育料無償化事業を行っているところがまちづくりの強みだと思います。これからは続けていけば、移住者も増えるのではないかと思います。また、観光にも力を入れることで、住む・来る人両方に魅力的なまちになると思います。</p>	項目	割合	教育	23.0	防災・町おこし	34.0	健康・福祉	16.0	環境・情報化	10.0	その他	17.0	<p>◆2) グラフ化された自分の考え</p> <p>◆資料「令和5年度山県市当初予算案のポイント」における各事業に基づいて自分の考えを伝えられるようになる。</p>
項目	割合													
教育	23.0													
防災・町おこし	34.0													
健康・福祉	16.0													
環境・情報化	10.0													
その他	17.0													
全体交流	<p>3 協同学習後、個人に立ち戻り、グラフを再構成させたり、修正させたりして考えの広がりや深まりを実感させる。</p> <p>4 その後、全体交流を行い、考えが変容した生徒の考えを共有することを通して、「公正」や「効率」の具体や立場や住む地域によって「公正」や「効率」の捉え方が違うことに気付けるようになる。</p>	<p>◆1) 前時までに構築した自分の考え・自分ももっていた当初の考え(学びのデータ)と交換後の自分の考えをグラフで比較することができるようにすることで、考えの変容を実感できるようになる。</p> <p>◆2) 前時までに構築した自分の考え</p> <p>◆2) グラフ化された自分の考え</p>												
まとめ	<p>5 山県市企画財政課の方の予算編成の見方・考え方を紹介した後、学習の振り返りを行う。</p> <p>【例】私は最初、多くの費用は子どもたちに使われるべきだと考えていました。しかし、〇〇さんの「一人一人の健康と福祉を大切にしていまちなら、どの世代にも当てはまるから、公正の前でよいと思う」という意見に納得し、健康・福祉の予算配分を多くしました。また、企画財政課の方の考え方の1つである「最小限の予算で最大限の効果を出す事業に予算を計上すること」は当たり前のことだけれど、公正や効率の考えが住んでいる地域や年代によって捉え方が違うことが分かりました。この単元を通して、市政に関わる人々が多様な年代や広い地域を大きくとらえて、予算が編成され、まちがつけられていることを実感したり、地域の一員として予算と議会など市政に関心をもつことが大切だと感じました。</p>	<p>◆前時までに構築した自分の考え</p> <p>◆自分ももっていた当初の考え(学びのデータ)と交換後の自分の考えをグラフで比較することができるようにすることで、考えの変容を実感できるようになる。</p> <p>◆1) 前時までに構築した自分の考え</p> <p>◆2) グラフ化された自分の考え</p>												



項目	割合
教育	20.0
防災・町おこし	35.0
健康・福祉	30.0
環境・情報化	10.0
その他	5.0



項目	割合
教育	0.0
防災・町おこし	0.0
健康・福祉	0.0
環境・情報化	0.0
その他	100.0

山県市当初予算案(令和5年度)	山県市当初予算案(令和5年度)	山県市当初予算案(令和5年度)																																				
<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>金額</th></tr> <tr><td>教育</td><td>1,200,000</td></tr> <tr><td>防災・町おこし</td><td>1,800,000</td></tr> <tr><td>健康・福祉</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>環境・情報化</td><td>600,000</td></tr> <tr><td>その他</td><td>900,000</td></tr> </table>	項目	金額	教育	1,200,000	防災・町おこし	1,800,000	健康・福祉	1,000,000	環境・情報化	600,000	その他	900,000	<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>金額</th></tr> <tr><td>教育</td><td>1,200,000</td></tr> <tr><td>防災・町おこし</td><td>1,800,000</td></tr> <tr><td>健康・福祉</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>環境・情報化</td><td>600,000</td></tr> <tr><td>その他</td><td>900,000</td></tr> </table>	項目	金額	教育	1,200,000	防災・町おこし	1,800,000	健康・福祉	1,000,000	環境・情報化	600,000	その他	900,000	<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>金額</th></tr> <tr><td>教育</td><td>1,200,000</td></tr> <tr><td>防災・町おこし</td><td>1,800,000</td></tr> <tr><td>健康・福祉</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>環境・情報化</td><td>600,000</td></tr> <tr><td>その他</td><td>900,000</td></tr> </table>	項目	金額	教育	1,200,000	防災・町おこし	1,800,000	健康・福祉	1,000,000	環境・情報化	600,000	その他	900,000
項目	金額																																					
教育	1,200,000																																					
防災・町おこし	1,800,000																																					
健康・福祉	1,000,000																																					
環境・情報化	600,000																																					
その他	900,000																																					
項目	金額																																					
教育	1,200,000																																					
防災・町おこし	1,800,000																																					
健康・福祉	1,000,000																																					
環境・情報化	600,000																																					
その他	900,000																																					
項目	金額																																					
教育	1,200,000																																					
防災・町おこし	1,800,000																																					
健康・福祉	1,000,000																																					
環境・情報化	600,000																																					
その他	900,000																																					

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある美術科学習

1 題材について (1) 教材の魅力

従来大切にされ受け継がれてきた日本の印鑑の文化であるが、今日、電子印鑑の登場やペーパーレス化の流れによりその必要性は薄れてきた。そこで本単元では、自分の周りの人々に対して印鑑の魅力を伝え、相手が使いたいと思えるような作品づくりを目指して篆刻の制作を行う。使用する相手や場面などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果、使いやすさや機能と美しさなどの調和を総合的に考え構想し、表現の意図に応じて創意工夫して見直しをもって創造的に表す。相手のことを考えたり、自分に置き換えたりして試行錯誤を繰り返しながら制作する面白さと、自分の作品が主題に近づく喜びを実感できるようにしたい。また、生徒の作品などを鑑賞し、調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創意工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。

(2) 指導の計画 (第3学年 「心がほっと ながむもの」)

時	学習内容	知	思	主
1	鑑賞	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	発想や構想 印面のデザイン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3~4	制作 印面	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	発想や構想 紐のデザイン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6~7	制作 紐	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 (本時)	制作 紐	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9~10	制作 紐	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	鑑賞	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

…形成的評価 …総括的評価

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本題材や本時における『学ぶ喜び』の具体

教師や仲間の意見から発想を広げ、試行錯誤を繰り返すことで、技能や作品の変容と高まりを実感する姿。【高まる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 道具の使い方の参考動画
- ◆2) ロイロノートに提出した振り返りシート

個別最適な学び

参考動画をもとに自分の表現の意図に沿った道具を選択し、不足している技能の獲得につなげる。
振り返りを記入し、作品のつながりや技能面での成長を実感する。

仲間が提出した振り返りや写真をもとに、改善点を見つけ、個人の制作につなげる。
協働的な学び

資質・能力

材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表すこと。

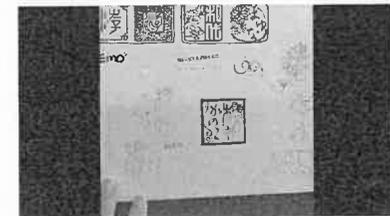
4 本時について

(1) 本時のねらい

表現の意図に沿った道具を自ら選択し、表現する活動を通して、制作の順序などを総合的に考えたり、見直しをもって創造的に表したりすることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	<p>1 前時の振り返り</p> <p>【課題】自分の主題にせまるための道具を選びながら彫りを進めよう。</p> <p>2 自分の表現の意図に沿った道具を選択する</p> <p>○粘土で制作した紐をもとに、石の単純化や省略、強調する箇所や装飾を施す部分を考える。</p> <p>・粘土と同じように尖った部分を石で彫ると、持った時に痛いかもしれない。模様をつけるだけにして省略してみよう。</p> <p>・粘土では細かな凹凸まで作ることができただけ、実際に石を彫ってみたらかなり時間がかかることが分かった。もう少し形を単純化させてみよう。</p> <p>・指にフィットさせることを大事にしながら、置いてあるだけで美しいと思ってもらえる印鑑にしたい。持ち手をもっと丸くして、曲線を強調しよう。</p> <p>◆1) 道具の使い方の参考動画</p> <p>○2, 3時間目に紹介した糸鋸とやすり、篆刻刀を用いた石の削り方を動画で再度確認する。</p> <p>○個別に何度も見返せるように、ロイロノートに動画を配布する。</p> <p>・石が欠けてしまうのが怖いから、慎重に篆刻刀を使ってゆっくりと彫り進めていこう。</p> <p>3 個人制作</p> <p>○削り方や注意点がわからなくなった時は、◆1) 道具の使い方の参考動画に立ち返って、道具の使い方を確認する。</p> <p>・もう少し作品を柔らかい印象にして丸みを持たせたいから、やすりで削るのが良さそうだ。</p> <p>4 仲間の意見を生かしながら制作する</p> <p>○「自分はこう考えながら道具を選択した」と伝えることができるようにする。</p> <p>○使いやすさと美しさの調和など、作品を見る相手の視点を理解する。</p> <p>・やすりで綺麗に作品の丸みが表現できているね。私は可愛らしさも感じる作品を作りたいから、次はやすりを使ってみようかな。</p> <p>・角の部分は切り落としてしまったほうが、制作のスピードが早くなると思うよ。糸鋸を使ってもいいんじゃないかな。</p> <p>5 振り返りの記入</p> <p>◆2) ロイロノートに提出した振り返りシート</p> <p>○作品を撮影して、ロイロノートの提出箱へ振り返りと評価とともに提出する。</p>	<p>◆1) 道具の使い方の参考動画</p> <p>・それぞれの道具の使い方を動画で提示する。全体で道具の使用手法や注意点について確認した後、動画をロイロノートで配布する。制作の途中で生徒が何度も動画を視聴することにより、道具の使い方を確認したり、必要に応じて自分の表現の意図に沿った道具を選び直したりする活動につなげたい。</p> <p>◆2) ロイロノートに提出した振り返りシート</p> <p>・題材を通してロイロノート上で振り返りを行い、毎時間提出する。作品の写真も挿入して提出することで、1時間ごとの作品の変容を確認させたい。教師は作品の進捗状況を確認し、本時の支援に生かす。</p> <p>【評価規準】〈知識・技能〉</p> <p>表現の意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって創造的に表している。</p>
考え・深める		
確かにする		



『学ぶ喜び』のある保健体育科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

本単元では、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法を理解する。また、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流を発表することで、表現などの自己の課題や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

つまり、自分たちのダンスのイメージを強く認識し、一人一人の違いに応じた表現を工夫するために、仲間と教え合うことやグループでテーマに合ったダンスにするために様々な動きやパターンを話し合いながら試すことこそ本教材の面白さであり、資質・能力の育成に関わる重要な視点であると考えている。

(2) 指導の計画 (第3学年 ダンス ウ 現代的なリズムのダンス)

時	学習内容	知	感	主
1	オリエンテーション ダンスに親しむ		○	○
2	ダンスの計画を立てる		○	
3	基本的な動きを身に付ける (空間)	◎		○
4	基本的な動きを身に付ける (時間)	◎		○
5	基本的な動きを身に付ける (力・全身)	◎		○
6	中間発表会		○	
7 (本時)	テーマ・イメージに合っているか見直す			
8	見直したものを深める		◎	○
9	リハーサル	◎		
10	発表会	○		

2 生徒の実態

3. 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

自分のグループの動画を見直して、仲間と話し合いながら改善点を発見し練習方法を工夫する姿。【高め合える喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 自分たちのグループのダンス動画
- ◆2) 仲間からのアドバイス

個別最適な学び

毎時間動画を撮影し、出来具合から次の目標を個人で設定する。

共有ノートのアドバイスを参考にしたりペア・グループで教え合ったりする。協働的な学び

【学び喜び】

資質・能力

表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

4 本時について

(1) 本時のねらい

自分のグループの動画を基に、改善点を検討し合う活動を通して、テーマに沿ったダンスにするためには、視点をもって練習方法を工夫することができる。切実と気持ち、台形形成しながら練習の取り組み方を工夫することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	「学びのデータ」の活用に関わって
つかむ	<p>0 準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タオルダンス…ストレッチ、風車通り抜け、プロレスリング ・日常の動きを工夫し、リズムに乗って踊る。例) 歩く・走る・打つ・投げる・押す・引く等 <p>1 課題をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各グループのテーマを確認する。 ◆1) 自分たちのグループのダンス動画 ○自分たちのグループの動画を見る。 <p>【課題】自分たちのダンスの動画を見直し、テーマに沿ったダンスにするためにグループで話し合おう。</p>	<p>◆1) 自分たちのグループのダンス動画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ動画を見直すのではなく、空間・時間・力・身体といった見る視点を示すことで、自分たちのテーマに沿ったダンスにできるようにしたい。
考える	<p>2 改善点を話し合う</p> <p><見る視点></p> <p>空間 方向：上下、左右、前後、斜め 大きさ：大きい、小さい、広い、狭い</p> <p>高さ：高い、低い 場所：その場、移動 動線：直線、曲線 面：矢状面、前額面、水平面</p> <p>時間 速度：速い、遅い 長さ：短い、長い 流れ：ストップ、一時停止、早送り、反復</p> <p>力 勢い：強い、弱い 重さ：重い、軽い 攻撃：鋭い、滑らか</p> <p>全身 全身と部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕の振りを上下から左右にしよう。もっと早くすると「楽しい」のテーマを表現できそうだ。 	
深める	<p>3 練習方法を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2) 仲間からのアドバイス ○動画で撮影して確認しながら練習する。 ○他のグループにアドバイスをもらいながら練習する。 <p>練習方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポを「イーチ、ニー、サン、シ、…」と変えてみる。 ○腕の振りを上下、左右、大小と変えてみる。 ○個人で踊っているところをグループにしてみる。 <p>技術的な練習の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここの腕の振りはみんなでそろえたほうが、自分たちの「平和」というテーマに合っているね。 	<p>◆2) 仲間からのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスシートを作成し、いつでも誰からでもアドバイスがもらえ、自分のダンスや練習方法を改善できるようにする。 <p>【評価規準】〈思考・判断・表現〉</p> <p>グループの動画を見返して改善点を発見し、テーマに合ったダンスにするために練習方法を工夫している。</p>
確かにする	<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕の振りが遅くテーマに合っていなかったから、速度に注目して様々な速さを試すことができた。 	

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある保健体育科学習

1. 単元について

(1) 教材の魅力

本単元では、ゴールの枠内にコントロールしてシュートを打ったり、味方が操作しやすいパスを送ったり、相手から奪われず次のプレイがしやすいようにボールをキープしたりするなどの「ボール操作」を学ぶ。また、攻撃の際は、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、守備の際は、相手をマークして守る動きや所定の空間をカバーして守る動きなどの「空間を作り出す動き」を学ぶ。ボール操作やボールを持たないときの動きに着目させ、空間を作りだしたり、自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を立てたりすることで、ゴール前への侵入などから攻防することが本教材の魅力である。

「学習したドリブル技術を活用して、オフenseにおける様々な場面でディフェンスを抜くことができる」という『できる喜び』こそ、本単元で感じさせたい『学ぶ喜び』であると考えている。

(2) 指導の計画 (第3学年 E球技 ゴール型 バasketボール)

時	学習内容	知	思	主
1	オリエンテーション ルールの確認 ミニゲーム	◎		○
2	基本技術の習得 (ドリブル・ボールキープ)	○		
3	基本技術の習得(ドリブル・シュート)	○		
4	基本技術の習得(パス)	○		
5【本時】	基本技術の活用(ドライブ)	○		
6	空間を作り出す動き(オフェンス)		○	
7	空間を作り出す動き(ディフェンス)		○	
8	リーグ戦を行う(技能について)	○		
9	リーグ戦を行う(作戦について)		◎	○
10	リーグ戦を行う(総まとめ)	○		◎

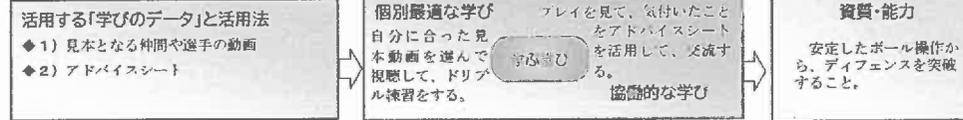
2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

学習したドリブル技術を活用して、オフェンスにおける様々な場面でディフェンスを抜くことができる姿。【できる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方途



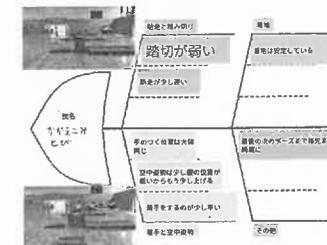
4 本時について

(1) 本時のねらい

ドリブル技術を活用し1on1をしたり、その動画を分析したりする活動を通して、ディフェンスを突破するためには、フェイントを織り交ぜたりすることが大切だと気づき、ドリブルでディフェンスを突破することができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びデータ』の活用に関わって
深める	0 準備運動、基本練習 ◆1) 配付してある見本動画を見て、基本練習を行う。 ・見本はボールを見ていない。どうしたらボールを見ずにできるだろう。 1 集合、整列、挨拶 2 課題をもつ	◆1) 見本となる仲間や選手の動画 ・15種類のドリブル動画から、自分のレベルに合ったドリブル技を選択する。
つかむ	【課題】ドリブル技術を活用し、ディフェンスを突破しよう。 ・フェイントを入れれば、相手を抜けるかもしれない 3 前半練習 1on1 (動画撮影) ○右のフェイントの中からできそうなものを選び、繰り返し行う。 ・ドリブルが得意だからステップフェイントをやってみよう。 ・ドリブルが苦手だけビューステップフェイントならできそうだな。 ◆2) アドバイスシートで視点を絞ってアドバイスをし合う。 ・Aさんは顔を振り、目線でもフェイントを入れているから抜けるんだね。 ・もっと切り返しを速くするとディフェンスを抜けそうだね。	フェイントの種類 ・シュートフェイント ・パスフェイント ・ステップフェイント (見本動画を提示する) ◆2) アドバイスシート ・チーム内で1on1を行い、視点を絞り仲間のプレイを見ることで、気付いたことや感じたことをアドバイスシートを活用して、交流したい。
考える	4 中間振り返り(動画を比較する) ・ドライブの時に肩を入れると相手との距離ができて抜きやすい。 ・やっぱり速さも必要だ。 ・より速さを出すためにゆっくりから急に速くするといいな。	【評価規準】〈知識・技能〉 ドリブル技術を活用し、フェイントなども入れながら、ディフェンスを突破している。
深める	5 後半練習 1on1 ・始めはできなかったけど、肩を入れたらできるようになった。 ・スピードに強弱をつけたら、抜くことができた。	
確かにする	6 3on3のゲーム 7 本時の学習を振り返る ・ゲーム形式でもうまくフェイントを使ってドリブルでディフェンスを抜くことができた。 ・ドリブルで抜いた後、シュートを打つことができた。 ・ドリブルで抜いた後、空いている仲間へパスを出すことができた。	



アドバイスシート (跳び箱)

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある英語科学習

1 単元について (1) 教材の魅力

本単元では、身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができるようにする。
私は、状況や場合、相手によって、どの条件を重視し、最適な方法として選ぶかが大切であると考え、そこで、「場面や状況に応じて、必要な情報を取捨選択したり、情報を比べて、相手に沿った根拠のある意見を伝え合ったりすることができる」という「伝え合う喜び」こそ、本単元で感じさせたい『学ぶ喜び』であると考えている。
身近なことについて、特徴を比較する言語活動を通して、既習した様々な比較表現を活用することで、場面や状況に沿った自分の考えをより根拠を持って伝えることができることに気付かせたい。

(2) 指導の計画 (第2学年 Unit6 「Research Your Topic」)

時	学習内容	知	理	主
1	Starting Out			
2	Scene1 (比較表現 <i>...er / the ...est</i>)			
3	Scene1			
4	Scene2 (比較表現 <i>more ... / the most ...</i>)			
5	Scene2			
6	Mini Activity			
7	Read and Think1 (比較表現 <i>better / best</i>)			
8	Read and Think1			
9	Read and Think2 (比較表現 <i>as - as ...</i>)			
10	Read and Think2			
11(本時)	Unit Activity		○	○
12・13	単元テスト・パフォーマンステスト	○	○	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。【使える喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方法

活用するデータと活用法

- ◆1) コミュニケーションの基となる写真や動画、スライド
- ◆2) 音声入りのテキスト

個別最適な学び

共有された情報を参考にし、相手や場面、状況に沿った自身の考えを、教師の支援を受けながら考える。また、自分の蓄積データを活用し、学びに繋げる。

既習データや仲間のデータを活用したり、仲間の良さを認めたりし、共有された情報を取り入れ、より説得力のある意見を伝える。
協働的な学び

資質・能力

比較表現を用いて、場面や相手に応じた最適な方法を考えること。

4 本時について

(1) 本時のねらい

場面や相手に合った目的地までの行き方を決めるために、複数の交通手段を比べて、意見を伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	データの活用に関わって
つかひ	0 Routine works	
整	1 Oral Interactive Introduction ○今の時期に合わせた「冬休み」についての予定を確認し、ALTの友達が冬休みにホームステイに来るとい場面設定を行い、写真を見せながらALTと会話を繰り返して、活動の内容に繋げていく。 T: What are you going to do during winter vacation? A: I'm going to meet my friend from New Zealand! We're going to go to Inaba Shrine! But I'm thinking about how to go there...so, can you think about it together?	◆1) 電子黒板に提示された写真をもとに、話の概要を把握する。 話に関連する写真からどのような話が繰り返されているかを予想し、質問に反応しながら聞き、話の概要を掴む。その話から本時の内容に繋げ、見通しを持つ。 様々な公共交通機関を利用した複数のルートを教師側から共有する。その表の情報とALTの友だちの特徴や思いなどの情報をまとめたものを比べずり合わせながら、自分が最適と思うルートの理由を考えていく。
考	2 課題設定 【AIM】Let's tell the best route to Inaba Shrine for Tyler's friend!	◆1) 共有された情報を活用し、自分の意見を考え伝える。 教師の手本をまねるだけでなく、自分や仲間のデータを活用したり、仲間の会話例から良いところを自分たちに取り入れたたりし、生徒相互の協働的な学びの中で、工夫した表現を用いて、説得力のある意見を伝え合う。
深	3 本時の活動 ○場面の条件やALTの友だちについての共有された情報を元に、自分の考える最適なルートを選び、理由を考える。 ・所要時間、金額、快適さ、メリットなどの情報について、比較級 (<i>...er than / more ... / the most ...</i>) などの比較表現を用いて考える。 ・自分が選んだルートが何故最適と思うかの理由を自分の立場で考えまとめる。 ○まとめた自分の意見をペアで交流する。中間交流にて、ALTの友だちの条件と合っているか、やさなる情報を与えることで、内容面への指導を行う。その後、グループで交流し、グループでベストルートを決める。 Ex) I recommend ... / I think ... ・ALTとの会話例を提示したり、Tool BoxをALTと確認したりすることを通して、話す表現内容や表現方法を考える。 ・ペアで2往復以上の会話を続けられるように、既習事項をまとめたロイロの共有ノートを活用する。 ・共有された情報を元に理由の根拠がはっきりと考えられた表現をしている生徒を全体交流する。	【詳細規準】(思考・判断・表現) 話すこと [やり取り] イ 目的地までの行き方を決めるために、複数の交通手段を比べたり、与えられた条件を考えたりして、簡単な語句や文を用いて意見を伝え合っている。
確	4 Recording & Writing ○自分が仲間と話した内容を録音し、その内容を聞いてノートに書き出す。録音したものと書き出したものをロイロにて提出する。 ◆2) 自分の音声が録音されたシートを活用したディクテーションをする。	◆2) 自分の音声が録音されたシートを活用したディクテーションをする。 話した内容を録音し、その録音データを自分で聞いて、ノートに書き出す。録音したものと書き出したものをロイロにて提出する。
か	5 本時のまとめ ○グループで決めた最適なルートをクラスで交流する。	I think we should choose route A because he wants to see a beautiful view. It takes 40 minutes by bus. It takes longer than taxi, but it's the cheapest.

令和5年度 高富中学校 公表会 学習指導案

『学ぶ喜び』のある生活単元学習

1 単元について

(1) 教材の魅力

本単元では、年間を通して季節を味わう学習を行っている。四季のある日本ならではの暮らしの知恵を体験したり、風情を楽しんだりすることを通して、季節とともに暮らすよさを実感できるようにしたい。秋は、「秋を楽しむ」というテーマで、紅葉の見学に行ったり、紅葉した植物でアート作品などを作って家族などに贈ったりする活動を行う。こうした活動の中で、過ごしやすく美しい秋という季節を楽しめるようにしたい。

(2) 指導の計画 (季節を味わう・秋「秋を楽しむ」)

時	学習内容	知	思	主
1	秋の季節のイメージを広げる。			○
2~3	紅葉した植物で作る秋を楽しむプレゼントの計画を立てる。		○	
4	近隣の紅葉の美しい場所を調べる。	○		
5~6	大矢田神社について調べる。	○		
7	大矢田神社に行く手段を考える。	○		
8	バスの利用の仕方考える。	○	◎	
9【本時】	大矢田神社までの最適なバスを調べる。	◎		
10~14	大矢田神社へ行き、紅葉した葉を集める。			◎
15	見学のより返りを行う。		○	
16~18	集めた紅葉を使って紅葉アートを作る。		○	
19	作った作品を交流し、贈る準備をする。			○
20	秋の学習をまとめる。		◎	

2 生徒の実態

3 研究に関わって

(1) 本単元や本時における『学ぶ喜び』の具体

調べたバスを交流する中で、条件に合ったより適切なバスを考え、見学に対する自信を高める姿。【調べる喜び】

(2) 『学ぶ喜び』を生み出す方法

活用する「学びのデータ」と活用法

- ◆1) 前時までにできるようになったことをまとめた学びシート
- ◆2) 岐阜バスナビを使用した学習ノート
- ◆3) 学習内容を記入した岐阜バス路線図など

個別最適な学び

前時までにできるようになったことや学習したことをシートやノートにまとめ、教師が実態をつかみ、指導・援助に生かす。

仲間が調べたバスを、路線図を指し示しながら見て、無駄のない最適なバスであることを確かめる。

学ぶ喜び

協働的な学び

資質・能力

本時に至るまでの活動で身に付けてきたことをもとにして、様々な条件を満たす最適なバスを調べて選ぶこと。

4 本時について

(1) 本時のねらい

大矢田神社まで行くためのバスを調べて交流する活動を通して、出発・到着時刻や運賃、滞在時間などさまざまな条件を考慮してバスを選ぶ必要があることに気付く、自分たちでより適切なバスを使って見学に行けそうだという自信をもつことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	『学びのデータ』の活用に関わって
つかむ	<p>1 大矢田神社への紅葉見学に向けた前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大矢田神社までは、岐阜バスの路線があるけど、どのバスに乗るといいのかな。 ・乗り方も勉強したから、バスが決まったら乗ってみよう。 ◆1) 学びシートを見返して、前時までの学習を振り返る。 <p>【課題】大矢田神社まで行くためにちょうどよいバスをさがそう。</p> <p>2 岐阜バスナビを使って、大矢田神社まで行くバスを個人で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に使った岐阜バスナビで、出発地を「山県警察署前」、到着地を「大矢田神社前」にして調べてみよう。 ・乗り換えが必要みたいだし、思ったより運賃がかかるのかな。 ◆2) 岐阜バスナビを使用した学習ノートを用いて、使い方を確認しながら調べる。 	<p>指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1) 前時までにできるようになったことをまとめた学びシート ・大矢田神社まで行くバスを選択する気持ちが高まるように、これまでのバス乗車の仕方の学習を具体的に示す。 ◆2) 岐阜バスナビを使用した学習ノート ・バスを調べるために入力する内容が分かるように、前回使用した時の入力内容を示して、入力内容を明確にする。 ◆3) 学習内容を記入した岐阜バス路線図など ・時間や運賃が適当であることが理解できるように、路線図を指し示しながら見るように言葉かける。
考える	<p>3 調べたバスを全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り換えた後に、また同じ道を引き返して高富小学校の前の道から大矢田神社に向かうんだ。戻ってくるのは、時間もお金ももったいないな。 ・路線図を見ると、高富小学校の近くに、「雀ヶ丘」とか「森」というバス停もあるぞ。ここまでなら歩くこともできるかな。 ◆3) 調べたことを確認する。 	
深める	<p>4 交流したことをもとに、出発地や時間を修正してバスを調べ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発地を「雀ヶ丘」にして調べてみよう。学校から歩いていく時間も考えるといいな。 ・これなら、乗り換えなしでちょうどよい時間に着くよ。むこうでの紅葉集めの時間もとれそうだね。 	
確かにする	<p>5 帰りのバスを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅葉集めや昼食の時間も考えて、帰りのバスを調べてみよう。 ・学校に着く時刻も下校時刻を過ぎることがないようにしないといけな。 <p>6 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスが決まって、見学に行けそうだ。ワクワクするな。 	<p>【評価規準】(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地に行くためのバスが分かり、行き先・時間・運賃から最適なバスを選んでいく。(A・B・D) ・別の最寄りのバス停から乗車する方法があることに気付く。(C)